

5

食料生産

米づくりの課題と新しい取り組み

資料



めあて 日本の米づくりにはどのような課題があり、どのような取り組みが行われているのでしょうか。

1 米の生産調整



水田のすぐ横に畑が広がっているのには、どのような理由があるのかな。

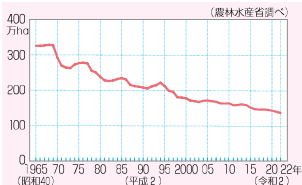
米

だいこん

転作した田(山形県酒田市)

米の生産量が増える一方で、消費量が減ったため、1960年代のなかばから米が余るようになりました。そこで政府は、麦や大豆などへの転作を農家にすすめることにより、米の生産量をおさえる政策をとりました。これを、米の生産調整といえます。現在では国による生産調整は行われておらず、農家を中心となり、需要に応じた量の生産を行うようになっています。

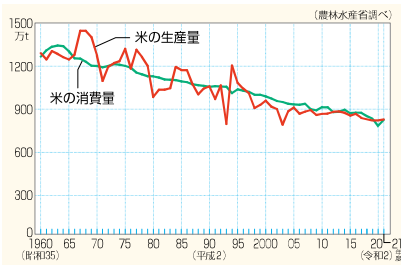
■ 稲の作付面積の変化



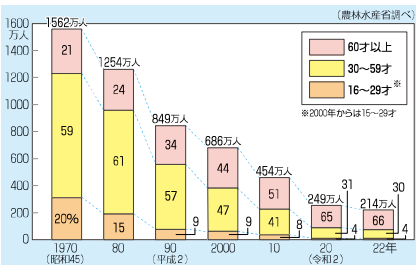
食生活の変化や人口の減少により、国内での米の消費量が減っているよ。また、働く人の高齢化などにより、耕作が放棄される田が増えているという問題があるんだ。



2 米の生産量と消費量の変化



3 農業で働く人の数の変化(年齢別)



【**転作**】田や畑で育てる作物の種類を変えること。米の生産調整によって田を畑に変えて、大豆や麦、花、野菜などをつくるようになった農家が多くなる。

【**耕作放棄地**】農業で働く人の高齢化や人手不足などによって、農作物が1年以上つられないことなど、今後数年つくる予定もない農地のこと。

4 米づくりに取り入れている新しい技術や取り組み



自動運転田植え機



水田センサー

田の形に合わせて、無人で田植えができます。人工衛星から位置情報を受信して、自動運転で作業を行います。

水田の水位や水温などをセンサーが自動で計測し、記録します。見回りにかかる時間が短くなり、効率的に田の管理を行うことができます。

■ 6次産業化の取り組み ▶ 64・65ページ

生産

加工

販売

米の消費量を増やす取り組みと合わせて、米がとった粉(米粉)をパンに加工し、販売している農家もあります。

食料生産

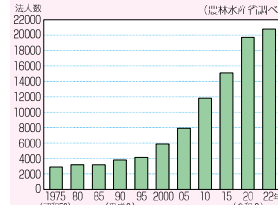
5 生産組合と農業法人

いくつかの農家が集まって作業を共同で行ったり、農業機械を共同で買ったり使用する「生産組合」や、法人(会社)として農業を営む「農業法人」というものがあります。生産や加工、販売を協力しながら行うことで、農産物の生産性を高めたり、農作業にかかる費用を減らしたりすることができます。

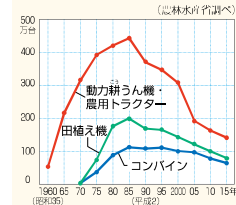
■ 生産組合のしくみ



■ 農地所有適格法人の数の変化



■ 農業機械の所有台数の変化



● 農地所有適格法人…農業経営を行うために、農地を所有できる農業法人のこと。

● 農業機械を共同で使うようになり、所有台数は減ってきました。

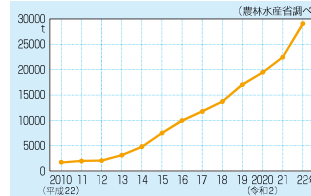
人手不足や高齢化、米の消費量の減少などの課題を解決するため、さまざまな工夫をしているね。



6 米の輸出

米の販売量を増やすために、国が中心となり、米や米の加工品の輸出を増やそうとしています。

■ 商業用の米の輸出量の変化



THIS IS JAPAN QUALITY
日本のおいしい米。

● 日本産の米や米の加工品の輸出をすすめるためにつくられたマーク。

ご飯を食べたくなる！消費拡大プロジェクト

米の消費量を増やすために、米をおいしく炊く方法や、おすすり料理の動画を発信する「炊こうチャレンジ」という活動を農業協同組合が始めていて、農林水産省も参加している。日本の米づくりがもり上がり、わたしたちはおいしい米が食べられる、「ご多華」プロジェクトだ。

#炊こう 飯食べたーい!

(2022年9月現在)

まとめ

- 米の消費量が減ったことで、米の生産調整が行われてきました。農業で働く人の減少や高齢化などの課題もあります。
- 米づくりに関しては、地域の人々が協力し合うしくみや、新しい技術の活用などが進められています。